

## 教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和2年 4月 1日

グループ名	関東自立活動研究会	フリガナ 代表者氏名	タソエ 田添 イブユキ 敦孝
学校名 (代表者)	都立小平特別支援学校 (校長 加藤 洋一)	電話番号	042-344-4537
研究テーマ	自立活動の指導の充実と発展に向けた研究について		
研究期間	平成31年 4月 1日 から 令和2年 3月 31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>障害のある児童・生徒一人一人の実態把握から指導目標、指導内容を設定するまでのプロセスの検討に加えて、指導の評価について、実際に児童・生徒の指導の事例研究8回を通して研究を進めた。また自立活動の実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスについてワークショップを実施するなど研究会（関東自立活動フォーラム）を開催して研究成果を報告した。（別紙1）</p> <p>2019年度 第1回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年4月20日（土） 10:30～16:30 ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟413号</p> <p>2019年度 第2回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年5月25日（土） 10:30～16:30 ・場所：東京都立小平特別支援学校武蔵分教室</p> <p>2019年度 第3回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年6月22日（土） 10:30～16:30 ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟509号</p> <p>2019年度 第4回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年7月7日（日） 10:30～16:30 ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟508号</p> <p>2019年度 第5回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年7月27日（土） 10:30～16:30 ・場所：東京都立小平特別支援学校武蔵分教室</p> <p>2019年度 第6回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年9月7日（土） 10:30～16:30 ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟301号</p> <p>2019年度 日本特殊教育学会第57回大会 自主シンポジウム（2019年9月23日）への参加（別紙2）</p> <p>2019年度 第7回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年10月12日（土） 10:30～16:30 ・場所：東京都立小平特別支援学校武蔵分教室</p> <p>2019年度 第8回 関東自立活動研究会 ・日時：2019年10月27日（日） 10:30～16:30 ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟509号</p>		

	<p>2019年度 第9回 関東自立活動研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：2019年11月30日（土） 10:30～16:30</li> <li>・場所：東京都立小平特別支援学校武蔵分教室</li> </ul> <p>2019年度 第10回 関東自立活動研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：2019年12月14日（土） 10:30～16:30</li> <li>・場所：東京都立小平特別支援学校武蔵分教室</li> </ul> <p>2019年度 第3回 関東自立活動フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：2020年1月4日（土） 10:00～16:30</li> <li>・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟309号</li> <li>・参加者 80名</li> </ul>
<p>その他 特記事項</p>	<p>2020年度も関東自立活動研究会活動を継続する。</p>

## 別紙 1

2019年教育研究グループ支援（研究成果報告）「関東自立活動研究会」報告書

2019年度、本研究会は10回の研究会を行い、新学習指導要領自立活動の解説の中にもある、実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化と学校組織における理解推進に向けた研究を継続しての取組み、特別支援学校の実践の充実につなげるために求められる視点や課題等について、2019年9月23日日本特殊教育学会第57回大会広島大会 自主シンポジウムを実施して報告と討論するとともに、2020年1月4（土）第3回関東自立活動フォーラムを開催して研究報告をした。

### 1. 研究の趣旨と経過

特別支援学校等では、障害の状態も多様で重度化、重複化の中、障害の種別を問わず、全ての特別支援学校、また小学校、中学校や高等学校において、自立活動の指導が重要な指導であることが明らかになってきた。しかし、いくつかの特別支援学校においては、自立活動の指導の内容等が十分な理解がされていない状態で指導が実施されているという課題も出された。

こうした中、2019年度関東自立活動研究会は、自立活動の実態把握から指導目標・指導内容の設定から評価までのプロセスについて、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に例示された流れ図を参考にしながら、各特別支援学校の事例研究を通して、児童・生徒一人一人の実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化にするとともに、取組の成果や課題を共有しながら、特別支援学校における個別指導計画の作成のための実践の充実につなげるために求められる視点や課題等について研究を報告した。

### 2. 研究の成果

自立活動の個別指導計画作成として、児童生徒の実態把握から具体的な指導内容設定指導の評価までのプロセスに沿ってワークショップを行う。児童生徒の実態把握から具体的な指導内容設定指導の評価までのプロセスは以下に示す通りである。

- ① 実態の把握から課題関連図の作成
  - 情報の収集・収束・配置と図解
- ② 中心課題と仮説の設定
- ③ 指導目標・指導内容設定
- ④ 評価（仮説）

## 児童生徒の実態把握から指導内容の設定および指導の評価までのプロセスの手順

### 【実態把握】

- ① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

○ 実態把握のために必要な情報を収集する段階

必要な情報を収集するに当たっては、解説自立活動編の「(1) 幼児児童生徒の実態把握」に示す、実態把握の観点、実態把握の具体的な内容、実態把握の方法を踏まえることが大切である。

また、幼児児童生徒のできないことばかりに注目するのではなく、できることにも着目することが望ましい。

実態把握や情報収集が多岐にわたって十分に行われていないと、個別の指導計画が作成できないというわけではない。その時点で把握できた実態や収集できた情報に基づいて個別の指導計画を作成し、それに基づく指導を通して、実態把握を更に深化させ、個別の指導計画を修正していく柔軟な対応が必要であることがわかった。

② - 1 収集した情報 (①) を自立活動の区分に即して整理する段階

「自立活動の区分に即して整理」とは、障害名のみによって特定の内容に偏ることがないように、対象幼児児童生徒の全体像を捉えて整理することを意図している。

② - 2 収集した情報 (①) を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の視点から整理する段階

「学習上又は生活上の困難の視点で整理」とは、これまでの学習の状況を踏まえ、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできることなども記載することを意図している。

② - 3 収集した情報 (①) を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

幼児児童生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理である。例えば、幼児児童生徒の「〇〇年後の姿」をイメージしたり、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいかを想定したりして整理することである。

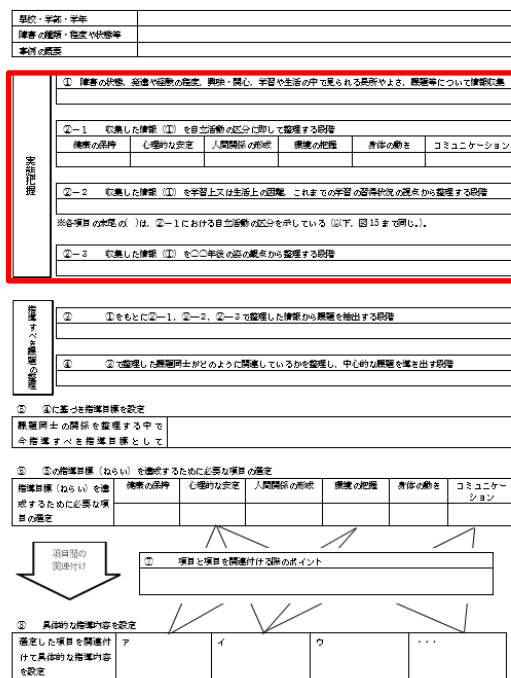


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例 (流れ図)

**【指導すべき課題の整理】**

③ ①をもとに②—1、②—2、②—3で整理した情報から課題を抽出する段階

②で整理した情報の中から、指導開始時点で課題となることを抽出するものである

④ ③で整理した課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す段階

③で抽出した課題同士がどのように関連しているのかを整理し、中心的な課題を導き出す段階である。課題同士の関連とは、例えば、「原因と結果」や「相互に関連し合っている」などの観点や、発達や指導の順序等が考えられる。

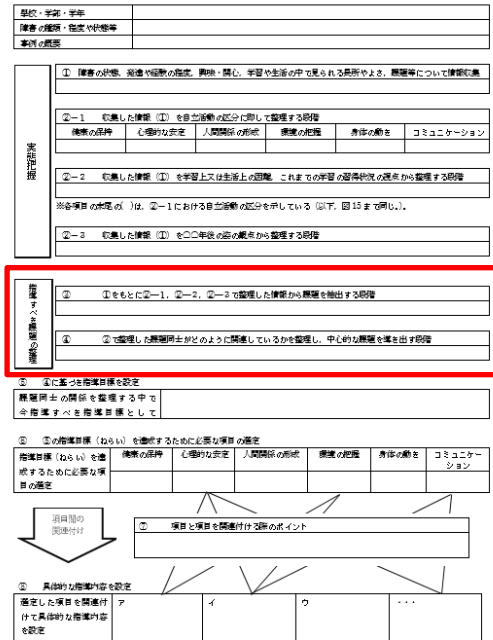


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

**【課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標を設定】**

⑤ ④に基づき指導目標を設定

④に基づき指導目標（ねらい）を設定する段階である。指導目標（ねらい）は、学年等の長期的な目標とともに、当面の短期的な目標を定めることが自立活動の指導の効果を高めるために必要である。

**【指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定】**

⑥ ⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定

⑤の指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目を選定する段階である。ここでは、自立活動の内容6区分27項目から必要な項目を選定することが大切である。

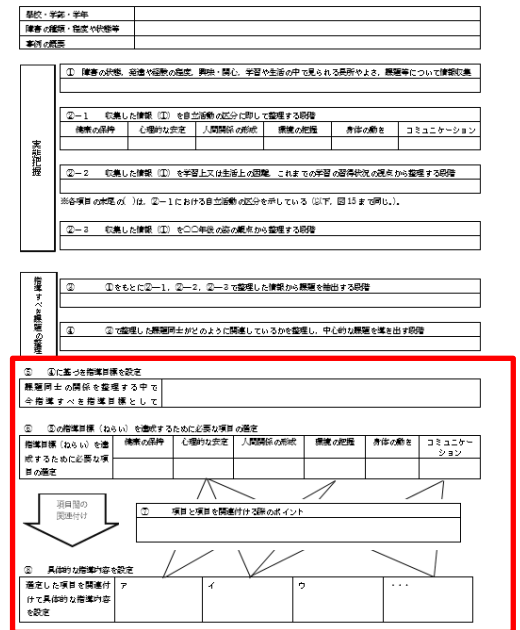


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

**【項目間の関連付け】**

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

「⑤の指導目標（ねらい）を達成するためには、こんな力を育てる必要があるから、区分○の項目○と、区分□の項目□とを関連付けて指導することが良い。」など、④の課題の整理や課題同士の関連のまとまりなどを振り返りながら検討することが大切である。

## 【項目と項目を関連付ける際のポイント】

### ⑧ 具体的な指導内容を設定

⑥で設定した項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定する段階である。その際に、根拠をもって項目同士を関連付けすることが大切である。

最後に、⑧の具体的な指導内容を設定するに当たっては、解説自立活動編の「(3)具体的な指導内容の設定する際の配慮事項」を踏まえて検討することが大切である。

なお、⑥⑧⑦を結ぶ線は、⑥の各項目と関連する⑧の具体的な指導内容とを結んだものである。

## 【評価】

自立活動の評価については、以上のプロセスで作成された児童生徒の指導目標に照らし合わせて、児童生徒がそれぞれどれだけ実現できたかを評価することとなる。自立活動の指導においては、具体的に設定した指導目標に対する到達状況を、複数の教職員で丁寧に評価することが大切であると考え。特に、発達初期段階の児童生徒については、指導内容のチェックリスト等を各学校で作成して、児童生徒の学びの履歴を共同で丁寧に記述しながら、指導評価を示し、指導を引き継ぐ必要があると考え。今後、各学校において、参考となる指導内容のチェックリストの作成も研究会として視野に入れる必要があると考え。

## 3. 第3回フォーラム参加者からの意見

- ・調査官の講演はとても勉強になりよかったです。
- ・とても活用できる内容でした。ありがとうございました。
- ・お正月明けすぐのこの企画、ありがとうございました。準備等、大変だったと思います。今日のいろいろな活動や講義の中で、自分の中での「自立活動」について整理できたところと、課題となったところとありました。今後の実践の中でしっかり考えていきたいと思います。
- ・自立活動について自分の中だけで考え解釈してしまっていた部分や見落としていた部分にたくさん気付くことができました。とても勉強になりました。
- ・教員1年目ではありますが、指導方法による教員間の意見の食い違いの場面に何度か遭遇したことがあります。本日お話いただいたように指導する教員全員で課題関連図を作成し、子どもに対する認識を共有し、課題設定へのプロセスを残すことで、子どもにとっての最適な指導に活かせると感じることができました。
- ・関東自立活動研究会の取り組みが素晴らしいと感じました。
- ・頭ではなく心で理解できました。非常に丁寧に教えていただきありがとうございました。次回を楽しみにしています。
- ・自立活動の関連図を活用して、実践している例をさらに聞きたいと思いました。
- ・初学者にとりましては歯ごたえがありましたが、とても勉強になりました。有意義な一日でした。

#### 4. 研究の考察と今後の課題について

第3回関東自立活動フォーラムを終えて、各講師から自立活動における提言があったので、以下に記載する。

- ① 児童・生徒一人一人の実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化を図り、若手の教職員にも具体的にプロセスの手順が理解しやすい関連図作成プロセスのためのイメージ動画作成を試行する。
- ② 児童・生徒一人一人の実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化を図るために、課題関連図のテキストを作成する。

○内容表の整理

○専門用語など言葉の整理

○自立活動の課題関連図を共同作業で作成するための、ファシリテーターや自立活動指導教諭のリーダー養成

※課題関連図を、教職員とチームの共同作業で効率よく課題関連図を作成できるテキストが必要がある。

関東自立活動研究会は、自立活動の指導に関する情報を発信して全国の自立活動の指導に関心のある教職員に対して積極的に連携を図り、今後も継続して研究を実施していく考えである。また、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編を参考にしながら児童・生徒の実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化と実践を推進する研究を進め、さらに自立活動の指導の充実を図って行きたい。

# 自立活動の確かな実践と教師の専門性向上を目指した取組Ⅲ

— 個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かせる評価のあり方 —

企画者	田添 敦孝	(東京都立小平特別支援学校武蔵分教室)
	永島 崇子	(東京都立大泉特別支援学校)
司会者	北川 貴章	(国立特別支援教育総合研究所 )
話題提供者	佐藤 貴宣	(東京都立久我山青光学園)
	渡邊 文俊	(埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校)
	佐藤 穂高	(埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校)
	毛利 英子	(鳥取県立皆生養護学校)
指定討論者	菅野 和彦	(文部科学省)

KEY WORDS: 新学習指導要領, 自立活動, 指導目標・指導内容の設定, 学習評価, 指導評価

## 【企画趣旨】

インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育が推進される中、平成 29 年から平成 31 年にかけて小学校・中学校学習指導要領、小学部・中学部特別支援学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領が告示された。特別支援教育の要となる指導領域である、自立活動に関する改訂に着目してみると、特別支援学級（小学校・中学校のみ）及び通級による指導の教育課程の編成の基本的な考え方が示され、自立活動という言葉が初めて小・中・高等学校学習指導要領の総則部分に明記された。高等学校での通級による指導が制度化されたことから、全ての通常学校の教職員に対しても、自立活動の指導について正しく理解を求める時代に突入したと言える。また今回の学習指導要領の改訂の方針が示された平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、自立活動の改訂の方向性の一つとして、「実態把握から目標・内容の設定までの各過程をつなぐ要点を分かりやすく記述することが必要である。その際、指導目標・内容を設定する際の各教科等と自立活動における 手順の違いや両者の関連を分かりやすく示す必要がある。」と示されていた。これらを踏まえ、今回の改訂では、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの具体的な例を示し、指導に携わる教師の「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」に至るまでの流れについてイメージを持てるよう工夫がなされている。

また特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章自立活動には、「児童又は生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努めること。」と記されている。自立活動の指導は、教師が幼児児童生徒の実態を的確に把握した上で個別の指導計画を作成して行われるが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、幼児児童生徒にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものである。したがって、幼児児童生徒の学習状況や指導の結果に基づいて、適宜修正を図らなければならない(文部科学省、2018)。このことから、自立活動の指導の充実を図るためには、授業を実施し、情報や記録から評価を行い、実態把握や設

定された指導目標・指導内容の修正を行う、いわゆる評価を通じて指導の改善を図ることは重要であると言える。

全国各地に点在する自立活動の指導力向上を目指した、Off-JT スタイルのインフォーマルな研究会では、OJT では解決できない事項について様々な実践研究や研修に取り組んでいる。各研究会の取組を見てみると、実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化について、各研究会でもテーマとして取り上げ、研鑽を積んでこられていると思われる。しかし、自立活動においても、評価を指導や学習の改善に生かしていくことが基本となる中で、実践における研究が急務の課題であると考えられる。

そこで本シンポジウムでは、本人及び保護者の承諾を得た事例を通して今回の自立活動の改訂のポイントでもある、実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化を図るとともに、評価のあり方について、各研究会の取組の成果や課題を共有しながら、各校の実践の充実につなげるために求められる視点や課題等について討論する。

【話題提供】(佐藤貴宣・渡邊文俊・佐藤穂高・毛利英子)

教員が主体となって自立活動に関する研究・研修に取り組む、全国各地の Off-JT スタイルのインフォーマルな研究会の活動紹介と実践研究報告を中心に、自立活動の指導実践上の課題のうち、実態把握から指導目標・内容の設定に関するプロセスと、実践後の評価及び評価後の実態把握の再検討や指導内容変更の必要性、及び引継ぎ時の評価に着目し、各地域の研究会で課題として挙がっている事項や改善に向けた取組等について、事例を交えながら報告する。

【指定討論】(菅野和彦)

文部科学省の立場から、特別支援学校学習指導要領に基づく自立活動の確かな実践を展開するために、本シンポジウムで報告された話題に対して討論を整理し参加者も含めて協議を深めたい。また、現職教員の自立活動の専門性向上に向けて、実態把握から評価に至るまでのプロセスにおける課題や、各学校が果たす役割、全国のインフォーマルな自立活動に関する研究会が果たす役割や今後の取組への期待などにも言及する。

(TAZOE Nobuyuki, NAGASHIMA Takako, KITAGAWA Takaaki, SATOU Takanori, WATANABE Fumitoshi, SATOU Hotaka, MOURI Eiko,)